

創立30周年に寄せて

校長 永井壽子

菊薫る佳き日、千葉県教育委員会より千葉県総合教育センター所長 吉村茂邦様をはじめ、数多くのご来賓の方々のご臨席を賜りまして、本日、ここに千葉県立市川北高等学校、創立30周年記念式典を挙げてまいりますことは、本校にとりまして、この上ない感激と喜びであり、心より厚くお礼申し上げます。本校は、市川市並びにその周辺地域の人口増加と高校進学者の急増に鑑み、市川市北部の緑に囲まれた静かな環境の地に建設されました。昭和54年4月10日、市川市民会館において、第一回入学式が行われ、新入生284名、教職員二十四名の6学級規模でスタートいたしました。以来30年、「至誠・励行・親愛」の校訓のもと、PTA・地域の皆様の暖かいご支援をいただきながら、生徒、職員が一体となって良き校風づくりに励み、平成20年度末までに9315余名の有為な人材を世に送り出すことができました。

私は今、この記念すべき時にあたり、本校の30年を振り返り、その発展を祝賀すると共に、今一層の進展を期することは、非常に意義深いことであると考えます。

草創期は、初代校長福島正富先生の教育理念のもと「手作りの学校づくり」が進められました。制服のデザイン、校章、校歌の作詞・作曲も手作り、校旗中央の校章も職員、生徒全員で一針一針縫ってでき上がったものと聞いております。また、開設当初は教育環境が整わない中、2棟のプレハブの校舎からのスタートでありました。夏の暑い日には教室内が蒸し風呂と化し、冬の寒い日には隙間から容赦なく冷気が入り込んでくる。また、台風で校舎の屋根が飛ばないように屋根を補強した、その効もあり教室の天井が壊れただけですんだと、卒業生は語っております。そのような教育環境のもと、「教えることはともに希望を語ること、学ぶことはともにまことを胸に刻むこと」を共に語り合い、生徒・職員の一体となった学校づくりが進められ、周囲からの評価をいただく学校へと成長してまいりました。が、本校にも試煉の時がございました。平成15年・16年の入学者選抜において、受験志願者が入学定員に満たず、やむなく2次募集をおこないました。この現状を何とかしなければとの気運が学校に広がり、時の校長、奥村豊先生を中心とした学校改革が進められてまいりました。各分掌からの学校改革の取り組みの原案が出されました。教務部からは、授業の充実、家庭学習の習慣づけのため、宿題を出し、その評価を成績に取り入れること、生徒指導部では、遅刻を無くそうと遅刻カードの導入、頭髪や教師暴言に対する段階的指導が提案され、進路指導部からは、3年間を通しての進路指導の見直しが見直されました。運営委員会、職員会議を経て、学校が一体となった改革の取り組みがなされたことが先日のように思い出されます。また、学年室での生徒指導も強化され、生徒と職員との信頼関係も深まりを見せました。この年、制服検討委員会が立ち上げられ、翌平成17年からは新制服の新入生を迎えました。このような努力の甲斐あって、平成17年の入学選抜試験の志望者においては、本校は、高い志願倍率を獲得いたしました。周囲の中学校や地域社会から、市川北高校は変わった、と評価をいただきました。

以来本校は、学習指導がきちんとなされ、出口保障のしっかりしている学校との評価を

いただいております。本校がこのような信頼される学校に再生できたのも、今日まで本校の教育にご尽力をいただきました諸先生方の開校以来の教育に対しての熱い想いが、水面下で脈脈と流れ続け、本校を支え続け、力となつての結果であつたと確信いたします。本校第3代校長の鳥海幸雄先生は、本校の発展を、草創期、基礎確立期、成長期にわけることができる、と創立10周年記念式典の式辞でお話されておられますが、私は、充実期をつけくわえさせていただきます。まさに現在の市川北高校は充実しております。本校は平成23年に市川西高校との統合が予定されております。周囲からはこの統合を残念に思うお言葉をたくさんいただいております。がこれも世の流れでございます。今の市川北高校の充実している力を、新しい学校づくりの基礎確立につなげて行きたいと思っております。

本日の記念すべき時にあたり私ども職員生徒一同は、更に、決意を新たに次なる飛躍の足がかりとして努力をしていく所存であります。今日まで、本校発展のために格別のご支援、ご尽力賜りました多くの皆様に、改めて深く感謝の意を表すとともに、今後とも本校のために何卒お力添えを賜りますことをお願い申し上げます。

終わりにあたりまして、公私ともに非常にご多用の中ご臨席をいただきましたご来賓の皆様には重ねて厚くお礼申し上げますと共に、今後ますますご健勝であられますようにご祈念申し上げ、式辞といたします。